

1. はじめに

当科は平成 20 年に開設されました。県南地区で肺がんを専門的に扱う数少ない機関であり、最新の医療を提供すべく頑張っております。地域の開業医さんと密に連携し、また手術加療に関しては秋田大学呼吸器外科からも応援を得ています。受診患者数は、前年度の 1.3 倍増で、入院・外来患者数・手術件数とも右肩上がりです。平成 21 年の年間手術件数は 53 件でした。平成 22 年は 1-2 月だけで、すでに 15 件の手術件数を数えます。

<呼吸器外科>

胸部外傷、気胸、膿胸の治療に加え、肺や縦隔の腫瘍、特に肺がんの早期発見と外科治療に重点を置いています。

肺がんは今や年間死亡者数が 60,000 人を超え、高齢化で喫煙大国の日本では今後ますます増えていくことが予想されています。また最近では、喫煙と関係のない末梢型肺腺癌も増えてきています。肺がんは早期に発見すれば治癒が望めますが、早期の肺がんは症状がほとんどなく、発見は遅れがちです。健康な時こそ検診が重要です。当院では胸部レントゲンに加え CT を用いた肺がん検診を行っています。CT 検診で発見される肺がんの 7 割以上が早期で、予後はきわめて良好とも言われています。

早期肺がんは手術療法が原則です。当科では、秋田大学呼吸器外科と連携しながら、傷が小さく患者さんの負担が少ない胸腔鏡手術を積極的に導入しております。肺がんの他に、気胸、膿胸、縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、炎症性肺疾患を含む良性腫瘍、手掌多汗症などの外科治療、また胸腔鏡下肺・縦隔リンパ節生検などの診断目的に手術を行っています。

また気胸の軽症から中等症の方で保存的に加療する場合、入院ではなく外来治療を行っております。脱気治療のため細い管を胸腔内に留置したままですが、自転車に乗れますし軽い労働は可能なので、学校や仕事を続けながら治療できるため好評です。

<呼吸器腫瘍内科>

当科の特徴として、肺がんの診断、外科治療だけではなく、大多数を占める進行肺がんに対する内科治療（薬物療法、放射線療法、緩和ケアなど）も行っています。

近年の肺がん薬物療法（化学療法＝抗がん剤治療）の進歩は目覚ましいものがありますが、その人にあった最適の治療を行うよう常に心がけています。患者さんの QOL（生活の質）の維持を重視した外来化学療法を積極的に行っています。

2. スタッフ

中川 拓（科長）：平成 7 年卒

日本外科学会指導医・専門医・認定医

呼吸器外科専門医

日本胸部外科学会認定医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

肺がん CT 検診認定機構肺がん CT 検診認定医師

工藤 智司（医員）：平成 19 年卒。

施設認定：呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設

3. 外来診療（担当医師）

月：中川、水：中川、金；中川／工藤

年間来院患者数：1,817 名（うち新患 232 名）

外来化学療法：???例（施行患者数）／年

内訳：肺癌 60 例、胸腺癌 1 例

4. 入院診療

一日平均在院患者数：8.9 名

平均在院日数：11.48 日

延べ入院患者 291 名の内訳は、

呼吸器外科 101 名（全麻手術 53 件、局麻手術 4 件など）、

腫瘍内科 190 名（確定診断目的の気管支鏡検査 33 件、化学放射線療法 107 名など）

手術症例

①全麻手術症例数 53 件

②疾患の内訳

原発性肺癌 20 例、転移性肺癌 5 例、気胸 12 例、縦隔腫瘍 3 例、胸壁腫瘍 2 例、
膿胸その他炎症性肺疾患 8 例、その他 3 例

③術式の内訳

肺葉切除 15 例（うち胸腔鏡補助下手術 10 例）

肺全摘術 1 例

肺葉管状切除 1 例

肺区域切除 1 例

肺部分切除 24 例（うち胸腔鏡下手術 23 例）

縦隔腫瘍切除 3 例（うち胸腔鏡補助下手術 1 例）

膿胸胸膜切除・胸郭形成術 1 例

レーザー・ステント 3 例